

2010年(平成22年)5月17日(月曜日)

社会総合



「バードの旅」から 本県の魅力再発見

南陽でシンポジウム

英女性旅行家イザベラ・バードの「日本奥地紀行」発刊130周年を記念し、東京のシンポジウムが16日、南陽市のハイジアパーク南陽で開かれ、バードの旅から本県の魅力を再発見して観光振興に生かす方策を探り合った。

1878(明治11)年に東京イザベラ・バードの旅をたどり本県の魅力を見つめ直したシンポジウム。南陽市・ハイジアパーク南陽

から北海道まで旅したバードは、置賜盆地を「東洋のアムステルダム」と称賛。ハイジアーパークには、これにちなんで全国でも珍しいバード関連の常設展示コーナーがある。

「元気・まちネット」(矢口正武代表)戸沢村出身)が同施設でのシンポジウムを企画した。隣県や関東など県内外から約70人が参加。「日本奥地紀行」の再翻訳に取り組み、高山市の元気まちネットは「わさわさ未踏路を歩くと締めくくった。



て日本の原風景を知ろうとし、バードの情熱、冒険心、探求心に学びたい」とバードの内面にも思いをはせた。まちネットの矢口代表は、映像を交えて近年行った踏査行を紹介しながら「バードのたった1行の記述からまちおこしに取り組み町もあり、足を握り起せば財産はたくさんある。どう生かして、街道観光」に結び付けるか、必要なプロモーションだ」と締めくくった。